

松村通信第 170 号

8 月 30 日

松村勝弘

現象学

近況・無理せず 昨年 11 月 25 日に脳梗塞を発症し退院後も身動きがとれない日々が続いているとこれまでに書いた。発症以来、無理せずのんびりと続けたいと思っている。

これだけの大病を経験して、余命いくばくもないことを実感した。無理をせずのんびりとやりたいという気持ちと、これまでの研究をまとめておきたいというアンビバレントな気持ちである。

しかし、これまでの研究をそのまま続けたという気持ちではない。かといって第 168 号で紹介した多田富雄氏のような「寡黙なる巨人」になれそうにはない。気づいたこと、思うところを淡々と書いておきたい。

そんな気持ちでいるとき、村上靖彦『現象学的質的研究入門——一人ひとりに固有の経験と向き合うために』（ナカニシヤ出版、2025 年）を読んだ。村上氏の本は本通信第 148 号でも同氏による『客観性の落とし穴』を紹介したが、氏は現象学〔的質的〕的に研究されている。なおこんなサイトも役に立つだろう

（「『書評』客観性の落とし穴 村上靖彦」「村上靖彦さんの『客観性の落とし穴』」¹⁾。目もくらむほど大きな問題提起もされている。でも、微力ながら何ごとか言ってみよう。

客観性・数値化への疑問 若いころからマルクス経済学に親しみ、その後これに疑問をもったが、ぬけきっていただろうか。現象学を学び初めて、つくづくそう思う。

近代西欧に毒され、客観至上主義、数値化信奉を続けていったよいのだろうか。若い頃にすべてを大状況から説き起こすことに疑問を感じ、もっと小状況から考えよ、といったのを思い出す。だから現象学に共感する。

村上氏はいう。「神の権威が失われ、自然は神の摂理ではなく、自律的な法則を持ち、人間は数式と数値によって自然を理解しコントロールできるとみなされるようになる。現代の意味での客観性という用語法が生まれたのが 1820 年代、普及したのが 1850 年代であると言われる」（7 頁）。西欧では神を否定しても一神教的伝統はそのまま残った。マルクス経済学も法則性を重視し、そして一元的である。だから村上氏は「私自身は西欧の学問

で生じたこの大きな地すべりは、キリスト教が失墜するなかで、真理を保証する審級が、神から数字へと移行した帰結だと理解している。数値一元論もまた、一神教的な価値観である。ともあれ真理が属する場所が、客観性と数値へと一元化されたのが 19 世紀以降の西欧型社会だ。」(8 頁)

語り しかし現実社会は一元論では理解できない。法則どおりに世の中が変化するわけではない。ここに現象学がでてくる。バラバラな現象に一貫性、意味をもたらすのは何か。「不条理で無意味な出来事も少なくないなかで、それでも意味を見出そうとするとする営み、それが語りだ。／語りは、因果関係では、捉えられない複雑な事象につながりと意味を与える。」(49 頁) かくてリアリティを持つ。そして言われる。「現象学的な質的研究は、客観化が持つ弱点を補う役割を持つ。決して客観科学・数値化を否定するわけではない。俯瞰的な視点を取ったときに削ぎ落とされる側面について、別の視点から補うのだ。」(9 頁) この場合の、語りとはどんなものだろうか。現象・現実根ざしているからリアリティがある。

「偶然の出来事と創造的な行為からなる私たちの経験は、語りによって捉えることができる。人間の経験²⁾が持つリアリティと創造性をクリエイティヴを出発点にして考えることを現象学的な質的研究は試みてきた。」(146

頁) ともいわれている。

さらに、「出来事は語られて文章となる。言葉で説明されていないあいまいな状況は、語りだすときになにがしかの秩序を獲得する。」(146 頁)

十分な紹介ではないが、さしあたりこのくらいにしたい。

1) 新書大賞に入賞し、多くの書評が出ている。いくつか紹介しよう。①

<https://www.youtube.com/watch?v=BhvfOTz4tlg>

YouTube・Sonson's Academy そんなズアカデミー

②「《書評》客観性の落とし穴 村上靖彦」

<https://fuuinyoga.com/pitfalls-of-objectivity>

③倉田シウマイ「客観性の落とし穴(村上靖彦、ちくまプリマー新書)」

<https://www.youtube.com/watch?v=pERQyOkfJ78/>

2) 「社会問題や歴史認識、政治議論などでは、特定の視点から現実を説明する枠組みを「ナラティブ」と呼びます」

<https://note.com/kzstock/n/n8464ba129797>

HP, FBを見て下さい。又何でも意見を。

皆様のご意見を歓迎します。HP
(<http://www.ritsumei.ac.jp/~matumura/>) もご覧下さい。
フェイスブックもやってます。また、メールで意見交換しましょう。メールをよこして下さい
(matumura@mba.ritsumei.ac.jp)。